



静岡県町村会長賞

年をとったそら

一年 室谷江蓮

物心つく前から一緒に暮らしてきた愛犬のそら。元気だったそらもう平均寿命になった。体がおとろえていることは彼を見ればわかる。これからいつ亡くなるかわからないそらに私は、どう向き合えばいいだろうか。

そらは、私の一つ下、十二歳のゴールデンラブラドル。保護施設からゆずり受けたばかりのころは、よく外で遊んだりねたりしていたらしく、太陽に当たると黄金に輝く毛並が美しいのが特徴。年を重ねていくごとに性格が落ち着いていき、活発に外で遊ぶことも少なくなっていた。そらは、あの時の小さい姿ではなく、大人になったと感じた。

去年、家の一階のフローリングを新しいものに変えた。新しいフローリングに私たちは気分がよくなっていく一方、犬のそらは不便そうだった。起き上がるたびにフローリングにすべり、転びそうになるのだ。私はそらがけがでもするのではないかと心配になる。両親は、すべりにくくするために竹ラグをひくことにした。多少、楽に過ごすそらの姿を見てホッとしたが、いつまで今の状態が続くかはわからない。そらの体の動きが悪くなっていくからだ。足の運びはおそくなり、少し動くだけでも息切れしている。このまま体が悪くなっていけば、生活はより難しくなっていく。ただ大人になったわけではなく、体力や元気がないということを実感してしまった。

実は、悪くなってきたのは体だけではない。そらはよく外で吠える。夜は近所へ迷惑をかけるため、名前を呼んで呼びますが、ある時から私たちの声に反応しなくなった。まるで聞こえていないかのよう。それに反応しない。私たちは、そらの耳が聞こえにくくなっていると確信した。

そらの様々ところが機能しにくくなっているところから年をとっていることがわかった私は、ラブラドルの平均寿命を調べた。もちろん個体差はあるが、平均寿命は十歳から十二歳。だいぶドキッとした。そらは、十二歳。もう平均寿命を到達している。それにあの体の動きだ。

「もう亡くなるの？そらは。」

両親に聞いてみた。

「わからない。だからこそ、最後までかわいがろうね。」

その言葉で思った。私にできることは、最後までそらとの時間を大切にすることではないだろうか。そらと一緒に過ごす時はきつと長くはないだろう。私がそらの寿命に向きあううえで一番大切なのはそらとの充実した時間だと思う。そうすればきつとそらも幸せに終えることができ、何より自分が後悔しないから。もつと一緒にいればよかつた後悔はしたくない。いつ別れが来るかはわからないけれど、それまで、そしてそれからそらを愛し、家族として大切にしていきたい。